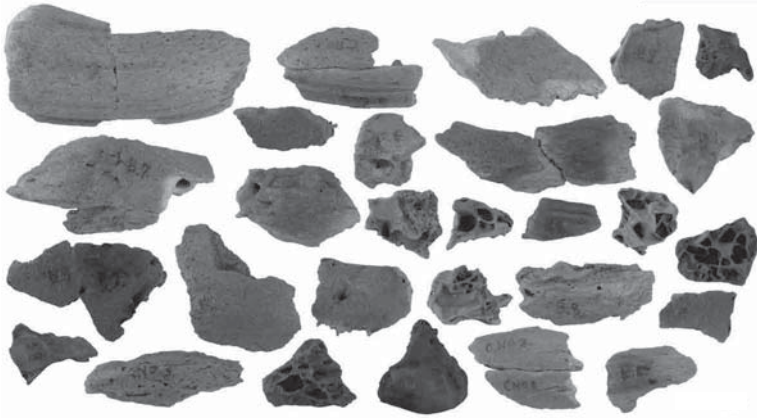


バイソンの頭骨片・28点

時は流れて今から30万年前。このころの北広島は、太平洋が内湾になって付近まで入り込んでいる、海と陸の境目でした。温暖な気候で、陸にはバイソンや、マンモスゾウの祖先・アルメニアゾウなどのほ乳類が繁栄し、海にはアカガイなどの貝類が生息していました。

このことは、市内で産出する多くの化石が教えてくれます。



バイソンの頭骨片・28点（頭骨と角の一部）



バイソンの角（複製）

バイソンの化石は、昭和46年に右角と後頭部の一部が発見されました。国内でも珍しく、道内では初めての発見でした。バイソンはウシ科の動物で、現在は北アメリカやヨーロッパに生息しています。発見された化石は、アメリカバイソンとヨーロッパバイソンのどちらの祖先なのか。それとも、異なるものなのか。解明はこれからの課題ですが、日本列島とほかの大陸との地理的つながりの変



おびひろ動物園のアメリカバイソン

遷を明らかにする足掛かりになることでしょう。
*今回は、昭和48年に発見された28点を指定しました。最初（46年）に発見された2点は含みません。

〈指定の理由〉

- 北海道でのバイソンの発見は、北島の2点が初。正式な報告では、全国でも北広島を含め4カ所しか例がない貴重なものである
- 北海道へバイソンが渡来してきた時

市指定文化財を詳しく紹介します。
ぜひお越しください。

◆北広島の大化石展

日時 9月22日(火)～29日(火)
いずれも午前10時～午後5時（最終日は正午まで）
会場 芸術文化ホールギャラリー

◆講演会「北広島のパイソンについて」

日時 9月26日(土) 午前10時30分～正午
会場 芸術文化ホール
講師 元北海道教育大学教授 きむらまさいち 木村方一さん
定員 先着100人
入場料 500円
申込み 9月25日までに市教委生涯学習指導班



期や古地理を特定できる
●北アメリカ大陸やユーラシア大陸で出土したウシ科の化石と比較することで、系統的な位置付けを明らかにでき、周辺の大陸と日本列島の古生物地理区のつながりを解明できる